

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300192		
法人名	株式会社山崎産業		
事業所名	大瀬別荘G. H.	ユニット名	城山
所在地	宮崎県延岡市古城町3丁目11-12		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成29年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設のアピールポイントは3つあります。1つ目は地産地消の食材を使った手作りの食事、腸内環境を整えるために毎日手作りヨーグルト、手作り味噌など発酵食品をより多く食べていただけるようにしています。2つ目は訪問看護ステーション、訪問歯科、訪問薬剤と連携し、専門的視点を取り入れることで利用者様の健康管理をより医療的にサポートしてもらっています。それに加えて施設内に外部からの視線を多く入れることによって施設内の密室化を防ぎ、虐待などの防止につながるように努めています。3つ目は季節感、郷土感のある行事を取り入れたり、散歩、ドライブなど外出援助の機会を多く設けるようにしています。もうすぐ開設して約2年目を迎えます。少しずつ経験を積みながら、柔軟に色々なことにチャレンジして利用者様の体調維持はもちろんのこと、生活の質(QOL)の向上に努めていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大瀬別荘という名には、自宅の延長にある別荘で、利用者や家族が一息つき、家族愛を再確認してほしいとの願いが込められている。各居室は一部屋ごとにカーテンの色を変え、畳、フローリングなど、利用者が落ち着けるように配慮・工夫がなされている。また、食事には特に力を入れており、毎日手作りのヨーグルトを用意し、腸内環境を整える配慮もなされている。季節に応じた外食や庭でのバーベキューは利用者の楽しみの1つになっている。学生の職場体験や実習の受け入れにも力を入れており、ホーム内に常に第三者がいることで、より良い介護支援につなげるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に、職員全員で唱和している。理念を社内各所に掲示し、また職員が一人一人メモサイズの理念を携帯して意識し実践につながるように心がけている。	ホーム内に何か所も理念を掲示しており、また、名刺サイズを常に携帯し、理念を常に意識できるように工夫している。朝礼時には全員で唱和し、理念が日々の支援に生かされるよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の買い物施設や美容室を利用したり、地区や市の催し物に参加するなど、地域と関係を持つように努めている。今後も施設側からの発信も含め、関係を深めていきたい。	自治会に加入しており、利用者と共に回覧板を届けることもある。学生の職場体験などを通して、また、多目的室を地区の人に利用してもらうことで、交流を図るよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として学生などの職場体験の場として活用してもらい、認知症についての理解、支援の方法を理解してもらえるように努めている。また多目的室で民生委員の研修の場に利用してもらったり、落語会などを開催したりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その時々で施設での課題を会議の中で話し合い、それを施設運営に取り入れている。ただ職員は出席が出来ていないので内容等に関しては浸透していない。	ホームの現況報告とともに課題やアドバイスがもらえる双方向的な会議がなされている。掘り下げた検討事項をサービス向上に生かすよう努力している。会議内容が職員に浸透していないことから、職員一名ずつの参加も検討している。	現在検討中ではあるが、管理者以外の職員参加も含め、運営推進会議録などを職員間で回覧するなど、情報の共有を図るよう期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	前項の運営推進会議に出席していただいたり、何か問題があればその都度相談し、指導を仰ぐようにしている。	会議以外でもケアに悩んだ時は電話をしたり、直接出向いてアドバイスをもらうなど、連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束が利用者様に与える影響を十分に理解し、家族様との相談の下、理解、了承、同意書も頂いた上で、やむを得ない場合のみ行、可能な限り拘束をしない取り組みを行っている。	身体拘束についての研修がなされ、見守りのケアに取り組んでいる。訪問看護や薬剤師、また、学生実習を積極的に受け入れ、常に第三者の目があることで職員の緊張感を保ち、拘束や虐待の抑止力になるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所を誰でも出入り出来るように地域などにも開放することで、色々な目線が行き届く環境を作っている。職員も見られているという意識を持ち、第三者の意見も取り入れながら防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員共になかなか学ぶ機会がないが、社会福祉士で日常生活自立支援事業の県社協の役員の経験のある当施設の顧問の知識を生かし、今後は職員研修、講習会等にて理解、活用に努めていきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	職員はかかわっていないが、施設長、管理者が契約内容を十分に説明している。また利用者様、家族様に不明な点があれば、その都度すぐに対応するようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎回、家族様には交替で運営推進会議に参加していただいている。また利用者様、家族様と良好な関係を日頃から築き、色々なことが相談しやすい環境づくりに努めている。来年度からは家族会の開催も検討している。	運営推進会議には常に家族の代表が参加している。前回の会議では家族会の話もでており、行事に合わせ、年に1、2回の茶話会を設けることを検討中である。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の各ユニットごとの職員会議、職員全体研修などを活用し、出来るだけ職員の意見や提案を聞く機会をつくっている。	リーダーを中心に行われる職員会議や職員全体研修を通して、意見や要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。提案に基づいて、24時間シートを見直し、内容に合わせた勤務時間の検討をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	おおむね職員は代表者が働きやすい職場環境・条件の整備に努めていると感じている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では月1回の職員研修に外部講師を招くなど様々な研修を取り入れているが、法人外では外部の講習会などはあまり参加出来ていないため、適宜参加を促していこうと考えている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流会を定期的に行っている。お互いの職員が他事業所の見学など、情報意見交換をすることでサービスの質を向上させるように取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報を事前に職員間で共有し、その上で利用者様の不安な気持ちを取り除き、信頼関係を築けるように傾聴するなど、要望・希望を聞き出せるような環境づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、施設長が家族様と話し合いを行いながら、最適なサービスに近づけるように見極め、対応している。またサービス導入後もコミュニケーションを密にとり関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長、管理者が利用者様、家族様の希望、要望を聞き取り、本人にあったサービス提供に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯物たたみ等、出来る限り家事に参加してもらい、利用者様一人ひとりに役割を持っていただけるように共に日常生活を送り、関係を築くように努めている。利用者様同士が不安について慰めあったり、感情を共感するような様子がみられる。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には出来るだけ面会や、各行事にも参加していただけるように声掛けを行っている。また何か利用者様にあった場合にはすぐに家族様に連絡をして、一緒に物事を考えていけるような体制をつくっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の状態にもより、難しくなっている部分もあるが、馴染みの人の面会や、ドライブなどで馴染みの場所に行ったりなど支援に努めている。	以前勤めていた会社のOB会への参加支援や御詠歌が好きな利用者には以前通っていた寺に連絡をし参加できるよう手配するなど、なじみの人や場所との交流が図れるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などに配慮し座席位置などを誘導したり、職員がさりげなく中に入り声掛けするなど、利用者様同士がお互いに支えあえる関係づくりに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院する為に退所された方への面会等を行い、サービス終了後も関係性が続くように相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴やコミュニケーションを取りながら利用者様一人ひとりの思い、希望を把握するように努めている。意思疎通が図れない利用者様は日常生活の中の観察から把握するようにしている。		日々の支援の中で傾聴に努め、言葉や表情などから把握できるように努力している。また、意思疎通が困難な利用者については、家族と話し合いながら日々の支援に生かせるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の利用者様の入所前の基本情報を読み込み、その上で本人はもちろんのこと、家族様からも話を聞くことでこれまでの暮らしを把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月一回のユニットカンファレンスを活用し、日々微妙に変化する利用者様の状態を職員間で見直している。また訪問看護ステーションと連携し、バイタルチェック、排泄チェックなど状態把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、職員間に加えて家族様、訪問看護、訪問薬剤、訪問歯科などの意見も聞き取りながら、より個別的な利用者様本位になる介護計画を作成している。		月に1度のカンファレンスを全職員で検討している。担当者会には利用者や家族と共に訪問看護、訪問薬剤、訪問歯科など専門職も交え、利用者本位の介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勉強会の実施により、記録の重要性を理解し、第三者が閲覧してもわかりやすい内容の記入に努めている。また個人記録、業務日誌、申し送りノートなどを活用し、日中の様子、気づきを職員間で共有。介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急病院受診、買い物支援、理・美容送迎など家族様が出来ない場合に対応を行っている。また音楽療法や笑いヨガなどのレクリエーションを取り入れている。			

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に合わせて鮎やななどの外食に行ったり、市や地域の行事などに参加している。また近所の美容室やスーパー、公園などを活用している。お正月は地域の神社に初詣に利用者様全員参拝していただいている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様対応での受診の場合、施設内での状況をサマリーにまとめ、かかりつけ医と情報を共有。施設対応の受診では、医師と直接やり取りしている。訪看や訪問薬剤などと共同し、密に連携できる体制を整備している。	本人・家族が希望するかかりつけ医となり、家族対応の受診の際には日々の状況をサマリーにまとめ、家族やかかりつけ医と情報の共有を図っている。家族の都合や状況の変化により受診支援もしており、家族や訪問看護、訪問薬剤との連携や情報の共有がなされている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、職員と情報を共有しながら日々の利用者様の健康管理や状況に応じた処置を受けるとともに緊急時には電話相談や施設訪問などの対応をしてもらえる体制を整備している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事務所対応にて入院先に情報、状態を報告し、入院中も面会など支援を行っている。病院とも連携を取りながら出来るだけ早期に退院が出来るように支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に家族様には説明をさせてもらってはいるが、重度化、終末期に対する体制は整っていないのが現状である。今後は訪問看護ステーションとの連携、看取りに関する職員研修などに取り組んでいきたい。	契約時に意思確認書を取り、状況の変化に伴い家族と相談している。家族の希望もあり、訪問看護ステーションや医師と連携を図り、初めての看取りを経験している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えての応急手当や対応の訓練など書類上(緊急連絡網の整備等)ではできているが実践的訓練は定期的に行っていない。消防署や訪看などと連携し、取り組んでいきたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や、消防署での心肺蘇生研修、外部講師を招いての職員研修など学ぶ機会を設けている。運営推進会議でも議題として挙げ、地域の一員としてどのように対応していいか検討を行っている。	消防署や保守点検会社の協力も得て、夜間想定避難訓練などを定期的に行っている。また、災害時には独居の人の防災施設として開放しようと取り組み中である。		

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの性格等を把握し、プライバシーに配慮しながらも、状態や気分にあった声掛けを常に心がけている。親しみと馴れ馴れしさをはき違えないようにしていくことが必要であると自覚している。	接遇研修を行い、本人の気持ちを大切にすることを取り組んでいる。管理者は親しみとなれなれしさをはき違えないように心がけており、気づいた時には訂正し、職員もプライバシーに配慮し、敬うケアに取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望を話しやすい環境づくりに努める。自己表現が困難な方に関しては発語、表情を観察し、気持ちを読み取るようにしている。また衣類の選択など意図的な声掛けにて自己決定の場を増やしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状況や希望に沿った支援が出来るようには努めているが、職員の都合や集団生活のルールに当てはめている場合も多々見受けられる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔の保持、整髪、爪切り、髭剃り等はこまめに対応しながら、その人らしい身だしなみ出来るように更衣時は一緒に服を選んだりしている。また馴染みの美容室などを利用されている方もいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食を取り入れたり、地産地消の食材を使った手作りの料理を提供している。利用者様には野菜の切り込みや皮むきなどをしていただいたり、食事の好みを聞いてそれに沿った献立をたてている。	庭で炭火で干物や芋、ウナギなどを焼くこともある。また、ホットプレートの日を設け、利用者職員が共におやつを作り、食欲を高める工夫をしている。調理には作る段階から一緒に取り組み、楽しく食事ができるよう配慮工夫がなされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分や高カロリーに配慮した栄養バランスのとれた食事を利用者様の状態に合わせ食事量、食事形態、食器などを工夫して提供している。水分がなかなか取れない方には水ゼリーなどで対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力での口腔ケアを促し、不十分な部分を一部介助している。訪問歯科診療とも連携して、口腔内の問題があれば、すぐに対応できる体制を整えている。			

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	しっかりと記録をとり利用者様のパターンをつかみ定期的な声掛け誘導の他、その都度トイレにて排泄できる環境づくりに努めている。また失敗したとしても自尊心を傷つけないような声掛けで対応している。		排せつチェック表を使用し、パターンを把握することで声かけ誘導を行い、トイレで排せつできるよう支援している。服薬に頼らないように、水分摂取量も考慮した排せつ支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の適度な運動と食物繊維の多い食材や乳製品や麹菌など腸内環境に良いものを取り入れている。また水分補給も水ゼリーなどを使用しながら促している。医師、訪看、薬剤師と連携し、下剤などの薬の調整も行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日は決まっているが入浴時間は利用者様に出来るだけ合わせている。入浴日以外は足浴を行っている。季節によってゆず湯やしょうぶ湯などで楽しんでいただいている。		入浴日は週3回としているが、利用者に合わせてゆっくり入ることができるよう支援している。季節のしょうぶ湯やゆず湯を楽しめるよう工夫し、また、利用者の好みのシャンプーなどを持ち込んでもらっている。入浴のない日は足浴を行い、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決まっておらず、一人ひとりの状態に合わせて、休んでいただいている。利用者様の睡眠状況を把握しながら、眠れない場合は傾聴したり、温かい飲み物を提供したりしながら対応する場合もある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤師と連携し、薬に関する疑問点がある場合にはすぐに相談できる環境を整備している。新たに薬が処方された場合には処方箋を確認し、職員全体で理解するように努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴に配慮した調理活動、洗濯物たたみ等の日常的役割は継続して行えるように心がけている。また利用者様とコミュニケーションをとりながら個々の楽しみ、希望を聞き取りレクリエーションに活かしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物などの機会を多く設けるなど、外出援助に力を入れている。今後も思い出の場所や、地域のイベントなど利用者様の希望を伺いながら支援できるように努めていきたい。また家族様にも一緒に外出などの声掛け、お願いをしていきたい。		日常的に近隣の店舗へ買い物に行ったり、周辺を散歩している。浜辺や市街地を展望できる場所へのドライブも多く、利用者や職員の気分転換の1つにもなっている。延岡の風物詩ともいわれる鮎やなにも全員で出掛けるなど、楽しめるよう支援がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	城山	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の了承を得て事業所で金銭管理をしているが、嗜好品等、利用者様の希望がある場合は職員同行にて買い物支援を行えるように努めている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に携帯電話を所持され、自由に連絡が可能な利用者様もいるが、その他の方々も希望があればやりとり出来るように努めている。手紙も家族様了承の上、お届けしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃にて清潔を保ち、空調による室温、湿度管理やこまめな空気入れ替えに努めている。また季節感を感じられるようにリビングの壁に毎月、季節に応じた飾り付けを利用者様と共に行っている。	リビングには季節を感じる飾りつけがなされており、室温や空調管理にも配慮している。玄関には長椅子のスペースを設置しており、大勢で出掛ける際にも滞らないように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内外にソファやベンチなどを設置し、自由に気の合う利用者様同士や職員とコミュニケーションがとれるようにしている。また居室への移動も自由にさせていただいている。また、玄関先にもメダカを飼い、楽しめるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で利用者様が心地よく過ごせるように、愛用品や使い慣れたものなどを中心に配置している。家族様の気持ちにも寄り添いながら利用者本位の居室創りに努めている。	居室にはテレビや仏壇など、利用者個々の品が持ち込まれ、居心地の良い居室となるよう配慮している。また、家族と共に壁に写真を飾るなど、居室に温かさが感じられるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」を把握して、残存機能を生かした安全な生活を過ごしていただいている。ベッドの高さや角度の調整を行ったり、利用者様の居室やトイレ、お風呂なども視覚的にわかりやすいように表示している。			